

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■西高 STYLE 西高 PRIDE の創造（飛翔、さらなる高みへ！！）

未来につながる確かな学力を育み、堺西高校を「誇り」とする教育に取り組む。

1. 「未来につながる確かな学力」を育成する
2. 「人権が尊重された学校づくり」を進める
3. 「西高コミュニティー」の充実と展開を図る

2 中期的目標

1. 未来につながる確かな学力の育成と自己実現の支援

- (1) 「体育・芸術表現創造コース」の充実・発展とともに、理系・文系・医療看護系への多様な進路ニーズに応える校内体制を整え、生徒一人ひとりの進路実現に丁寧に対応する。
 - ア. 生徒がキャリアプランを描き未来につながる学力を高め自己実現を果たすために「ハイスタ」(H24 実施の進学者向け講習)を充実させる。
 - 加えて早朝の自習室開放「朝学」(H25 実施) および勉強合宿「マイスタディー」(H26 年度予定)を定着・充実させる。
 - イ. 希望進路の実現を全力でサポートし進路決定率 95%以上を維持向上する。また、四年制大学・公務員試験等、一般入試で最後まで頑張る生徒の希望進路先決定率 70%以上をめざす。
 - ウ. 「アートスタジアム」(H24 実施した芸術コース・部活の発表会)を軸に生徒一人ひとりの専門性を高め大勢の人の前で発表することで表現力を養う。発表者のスキルをさらなる高みへ導くため学校全体で支援する。
 - エ. 自己実現のため英検、漢検等の資格取得を支援する。
- (2) 「分かる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア. 授業アンケートを有効に活用して授業の改善点を確認し、研究授業・研究協議をさらに充実させる（全員参加型の研究授業の実施）。
 - イ. 若手教員を中心に校内・外の研究授業に積極的に参加させ授業スキルのアップを育成する（ベテラン教員、外部教員からの授業力習得）。
 - ウ. ICT を活用した授業により、さらに授業改善の取組みを充実させる。また、プロジェクター（H25 に全 HR プラス特別教室 3 室設置済み）利用を促進し、ICT を活用した授業により一人ひとりの生徒にとって「分かる授業」「魅力ある授業」づくりをめざす。
- (3) キャリア教育の推進に取り組む（実践的キャリア教育の活用）

高い志を持った勤労観・職業観を育成するため、キャリア教育と志学を関連させた進路指導を行う。社会人の職業講演会をさらに活用しキャリアプランに基づく進学・就職を支援する。また、大学見学や職業見学を実施し 2 学年からの適切なコース選択につなげる。

2. 異校種間連携の推進と地域と共に育つ「西高コミュニティー」づくり

- (1) 部活動、学校行事の一層の活性化を図る。

卒業生、地域人材、大学生等の外部人材を積極的に発掘・活用する。また、中学生を招いた大会である「西高カップ」及び近隣小中学校や地域行事のボランティア活動を拡充し積極的に参加させる。
- (2) 地域貢献活動やボランティア活動の推進を図る。

「西高はきれいで、挨拶ができて気持ちがいい」と地域住民や外来者から言ってもらえるよう、「美化運動」や「あいさつ運動」を展開する。
- (3) 地域連携を充実させる。

本高生はもとより、子供から高齢者まで地域の誰もが生涯学習のとして、様々なスポーツ・文化・学習活動に参加できる取組みをさらに進める。

 - ア. 芸術コースと情報科による地域住民の方に対する学習活動「西高スクール」（音楽・美術・書道・PC 教室）を行う。併せて吹奏楽・演劇部等文化部による地域住民に対する発表会を行う。
 - イ. 体育コースによる地域の子供の体力向上を支援する高大連携の取組みを行う。
- (4) 異校種連携の一層の拡充と発展を図る。
 - ア. 小・中学校（桃山台小学校、福泉中央小学校、福泉南中学校、泉北高等支援学校）との連携した取組みの推進を図り、互いの学校の理解を深め小・中・高が一体となって生徒の成長を見守る体制を構築する。
- (5) 西高の取組みを積極的に情報発信する。
 - ア. 広報媒体（パンフレット・ポスター、HP、DVD）の内容を充実させ、学校説明会・中学校訪問等を積極的に展開し西高の魅力を広く地域に訴える。

3. 西高総がかりの元気で躍動的な運営組織の構築と積極的な人材育成

- (1) めざす学校像実現のため、全教職員が一丸となって迅速に問題解決、目標達成に取り組む機動性と一体性に優れた組織構築をめざす。
 - ア. トータルプラン委員会の提言を実現する（学力向上、キャリア教育、カリキュラム改革）
 - イ. 授業力に優れた先生による研究授業に若手教員を積極的に参加させ研究協議も含めて授業スキル・授業マインド双方の向上をめざす。
- (2) 「フレッシュミーティング」(H23 より実施の経験の短い教員を中心とした研修会)をさらに充実する。
 - ア. 授業力を中心にコミュニケーション能力および社会人としての在り方を身につけ共有することで若手教員の能力向上を促進する。
 - イ. 指導教員以外に新任教員と中堅・若手教員をペアリングして OJT を試行する。
- (3) 課題のある生徒や要配慮生徒を組織的に支援する体制を構築する。
 - ア. 教育相談委員会をリニューアルし、前年度の教育相談・人推委・養護教諭の情報共有会議をさらに拡充し、課題のある生徒や要配慮生徒の支援態勢の充実を図る。
 - イ. 保健室、教育相談室を充実させ教室になじめない生徒の居場所づくりを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】</p> <p>「学校が楽しいですか？」との質問に 80.0% (7.6P↑) の生徒が肯定的な答えをしており学校に対する満足度は高い。その背景には ① 部活動が盛んである 81.0% (1.5P↑) ② 西高祭や、クラスマッチなどの学校行事に積極的に関わっている 71.4% (3.9P↑) 等の、以前より培ってきた堺西高校の良き伝統が息づいている。また、校則や学校でのマナーを守っていますかの問いに対して 79.0% (8P↑) の生徒が肯定的な回答をしており、懲戒件数の大幅な減少傾向に繋がっている。総じて規律が保たれた良好な教育環境が実現している。</p> <p>【授業改善】</p> <p>授業改善について昨年度から重点事項として取り組んでおり、その改善の指標として意識してきた「分かりやすい授業が多い」31.7%(H24)→34.5%(H25)→46.2%(H26) (11.5P↑)「先生は教え方に様々な工夫をしている」29.0%(H24)→31.2%(H25)→43.1%(H26) (11.9P↑) の 2 項目は、共に前年比 2 桁の大幅な上昇を示した。その要因は、①公開授業週間を活用して教員相互で授業見学を行った ②全員参加型の研究授業を継続実施したことで教員の授業改善に対する意識が高まった ③各HRにプロジェクターを設置したことで設備面でも授業に使用する場面が格段に増加しており (61%の教員がプロジェクターを授業に活用) また、図書館を活用した調べ学習も年間 194 回実施しており、教員の創意工夫と設備面の充実が相乗効果を発揮し生徒の理解促進に繋がっている。このことは、教員のアンケートにおいても「生徒の実態をふまえ、指導方法の工夫改善を行っている」の肯定的回答が 82.8%に上ったことからもうかがえる。</p> <p>一方、生徒の勉学に対する姿勢も「宿題をきちんと行う生徒」が 63.4% (11.5P↑) と増えており「1 時間以上自宅学習時間を行う」の層が着実に育ってきている [H26. 171 人 (18.3%) , H25. 134 人 (14.4%) , H24. 141 人 (15%)]。とりわけ 2 時間以上自宅学習を行う生徒が 55 人(H24)→65 人(H25)→88 人(H26) と着実に増加しており、この層に対する動機づけと更なる学習意欲の喚起を狙った取り組みが求められる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>進路指導に関して、進路指導部および各学年が協力して進路 HR を活用した各種講演会 (卒業生による合格体験談、進路別講演会、14 業種の社会人から仕事について学ぶキャリア教育、大学見学会等) を行ったことから「進路決定について情報提供を含め将来の進路や生き方に考える機会がある」の項目が 63.3% (12.8P↑) と向上した。教員アンケートにおいても生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統だった進路指導が行われている (83.1%、11.3P↑) としており、加えて「学校は興味・関心、適性・進路に応じて選べるコースを設けている」の問いに 70.7% (10.1P↑) の肯定的な意見があり、特色ある学校づくりとして H22 に設置した体育・芸術表現創造コースの生徒たちが「体育祭における集団行動」「アートスタジアムの発表会」などを通じて具体的な姿で登場し、他の生徒たちにも意識化されていることが反映されている。学校が独自に設定している看護医療コースを含め文型・理型の 5 分野 7 コース制が進路ニーズに対応できているものと思われる。今後さらに時代の変化に対応して生徒ニーズに応じた進路指導を実施したい。</p> <p>【保護者】</p> <p>保護者の学校に対する質問項目では「学校の教育方針に共感できる」(72.0%、4.7P↑)「校則や社会ルールの指導に共感できる」(76.4%、1.0P↓) と学校運営や生活指導に対する保護者の信頼は厚いものがある。その根底には「さまざまな教育情報について提供の努力をしている」(57.6%、10.7P↑) があるものと思われる。加えて「他にない独自の教育活動に取り組んでいる 60.9%」(11.9P↑) と専門コースを中心とした多様な学びに対応した教育姿勢に対する理解度も高まっている。一方、「PTA 活動や後援会活動は活発である 55.6%」(1.3P↑)「学校は保護者や地域の人たちと交流する機会をもっている 54.7%」(4.5P↑)の学校と家庭・地域の関わりを示す項目も半数を超え一定の評価を得ている。また、保護者が直接学校に訪れて生徒の様子を見る機会を問う「公開授業や学校行事に参加したことがある」(44.3%)は前年比 3.3P 向上しておりここ数年微増であるが安定的に推移している。前述の学校が保護者と交流する機会を設けているとの項目と 10P 程の開きが生じており共働き世帯が増加している中で、平日に保護者が行事参加や授業見学に参加しづらい現実が見て取れる。個々の生徒対応では保護者の願いや相談に応じてくれる 56.9% (1.0P↑) と肯定的評価を得ており、今後、学校行事や公開授業を休日に開催することも検討し、保護者の学校に対する理解を高め学校と家庭が一体となった教育活動を推進したい。</p>	<p>第 1 回学校協議会 (6 月 30 日実施)</p> <p>「堺西高校の現状と課題について」と題して平成 26 年度の学校経営計画の説明とトータルプラン委員会で検討している議論の説明、高大連携と地域貢献について説明した。委員から、1 年生のクラブ活動加入率 75%を超えて学校全体で 66%と部活動を奨励する学校の姿勢が反映してよい傾向が表れているが、反面加入率向上に伴う事故防止について、問題発生時緊急対応策、AED 設置状況について質問があった。これに対して、事故対応マニュアルの徹底と AED 設置場所の確認および教員・クラブ員向け AED 講習会を実施して事故対応に対する取組みを説明した (専門家による教員とクラブ部員に対する講習実施)。次に、コース選択について 2 年で選択するまでにどのように指導しているのか? また、選択後の変更が効くのか? との質問に対して、本校は 1 年次からキャリア教育に力を入れており、進学・就職に関わらず生徒自身が自己の未来を描いて進路決定を行うよう指導している。また、複数回のコースに対する希望調査を行い可能な限り生徒の希望にかなうコース選択を実現しており生徒の満足感にもつながっている。授業改善に関して中学校の委員から「研究授業において、例えば小学校は全員ゼネラリストであり放課後に皆で意見交換して授業づくり」を行っている。ところが、中学校は教科毎のスペシャリストであり、放課後は分掌・部活指導で忙しくなかなか組織一体となった授業改善が行い難い。しかし個人より「みんなの知恵」を生かすことが良い結果を生むと思う。おそらく、高校も事情は同じであろうが「ICT の活用」「ティームティーチング」を導入して授業改善にいかされたい、との提言に対して「ICT 授業は全ホームルームにプロジェクターが設置されて活用度が高まったこと」「教員全員が参加する研究授業も 2 年連続で行っており授業改善に対する教員の意識も高まったこと」より、今後はティームティーチングも含めて授業改善の課題とすることを説明した。</p> <p>地域の委員から「今回の地域を巻き込んだ総合型スポーツクラブの取組みは素晴らしい」「小中学校の校庭開放事業から一歩進んだ取組みをもっと PR して行政も巻き込んで発展させて欲しい」また「西高生の悪いうわさは聞かない」「生徒は素直で子供らしいところがあり、その良い面は伸ばしこれからも地域と良好な関係を継続して欲しい」との発言があった。</p> <p>委員長から、「出口保障の部分で素直な生徒たちに進路指導で同じ思いを持ってチームで指導をして欲しい」「教員合意のもと生徒の希望進路を実現されたい」と締めくくられた。</p> <p>第 2 回学校協議会 (11 月 8 日実施)</p> <p>3 名の委員がアートスタジアムに来場されご意見をいただいた。</p> <p>第 3 回学校協議会 (3 月 26 日実施)</p> <p>学校協議会において H26 年度の堺西高校の取組みを以下の各担当から説明した。</p> <p>「授業アンケートと研究授業等」小林指導教諭、「学校教育自己診断」高橋首席、「進路実績」山内進路部長、「26 年度学校評価 (案) と 27 年度学校経営計画 (案) 校長各委員から以下の質問があった。委員: 教員アンケートで学校における意思疎通の項目が下がっているが? 学校: 実態としてうまくいっていると感じているが、職会等の運営形態の変更が影響していると推測される。委員: 授業アンケートで「分かりやすい授業」「工夫された授業」など授業に関する肯定的な評価が高まっている。また、進路実績の上昇も感じられるが進路決定者と未決定者が同じクラスで学ぶ場合対応は? 学校: 生徒たちの意識の問題ではあるが、1 学期と 2 学期とのクラスの変化は大きく最後まで興味を持たせる授業をする必要がある。委員: 中学校でも同じ問題を抱えており授業改革の必要性を感じる。授業アンケートは正直だ。魅力ある授業にするために従前の板書のみから ICT を使ったアクティビティーが重要だ。委員: 生徒は早く進路を決めたがっているがその中でも最後まで頑張る生徒が増えていることは好ましい事である。安易に妥協させずに、より高い進路目標を促してほしい。学校: 来年度から教員の最も大切な職務行動を授業力として位置付けられ「評価・育成制度」にも一部リンクすることになっています。本校は教員全員参加の研究授業授業も 2 年連続で実施し教員相互の授業見学も数多く行われるようになってきました。また、ベテランの授業を DVD 化し若手の先生の参考にしてもらう取組みも行いました。今後とも継続して授業力向上に組織的に対応していきます。委員: 家庭学習をしない生徒が 6 割に達しているが改善策は? 学校: 反面、1 時間～2 時間、2 時間以上家庭学習を行う生徒が継続して増えており、部活との両立をめざしてリクルート社の「受験サプリ」の導入に向け 20 名程度のモニタリングさせて試行してきました。今後の展開は不透明だが、力入れて行きたい。加えて ICT 活用型のインターネットが使える特別教室も整備したい。委員: 家庭学習時間に宿題を含めるのであれば、宿題の出し方に工夫が必要ではないか? 学校: 1 年生から家庭学習習慣の定着につながる有効な宿題の出し方等も検討して行きます。委員: 堺西高校の地域の子供を対象にしたスポーツ教室はありがたい。今後は老人や子供に加えて若い人が参加できる地域活動を増やしたいので先生方の協力をお願いしたい。学校: このスポーツ教室とダンス教室を合計すれば述べ 550 名の子供たちが参加してくれました。マスコミにも取り上げられ反響も大きく今後とも地域連携の一環として可能な限り続けて行きます。委員: 体力に自信のない子供も参加できるプログラムはないものだろうか。そんな子供にこそスポーツ参加を促すことが今後の課題だと思う。最後に、委員長から堺西高校の良い伝統を守りながら新しい取組みに挑戦することで学校が一つになり活性化する。教員が協力するために、さらに風通しの良い職場を作ってほしい。と締めくくられました。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 未来につながる確かな学力の育成と自己実現の支援</p>	<p>(1)多様な進路ニーズに応える校内体制を整え、生徒一人ひとりの進路実現に丁寧に対応する。</p> <p>(2)「分かる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>(3)キャリア教育の推進に取り組む</p>	<p>(1)ア.「ハイスタ」(H24 実施の進学者向け講習)を充実させる。加えて早朝の自習室開放「朝学」(H25 実施) および勉強合宿「マイスタディー」(H26 年度予定) を定着・充実させる。</p> <p>イ.「アートスタジアム」(H24 実施した芸術コース・部活の発表会) を軸に生徒一人ひとりの専門性を高め多数の人前での発表することで表現力を養う。</p> <p>(2)授業アンケートを有効に活用して授業改善の方向性を確認し、研究授業・研究協議の実施等校内研修の活性化により、より充実した授業改善の取組みを充実させる。また、ICT 機器を使った授業を拡充し、一人ひとりの生徒にとって「分かる授業」「魅力ある授業」をめざす。</p> <p>(3)高い志を持った勤労観・職業観を育成するため、キャリア教育と志学を関連させた進路指導を行う</p>	<p>(1)ア.「ハイスタ・マイスタディー」の参加者：通年 30 名以上 (H25, ハイスタ通年平均 10~20 名)</p> <p>イ.アートスタジアム 1 日の開催のため来場者 300 名を目標にさらなる内容の充実を図る</p> <p>(2)自己診断の生徒アンケートによる「授業アンケート」で肯定的な意見 60%以上をめざす</p> <p>(3)進路決定率 95%以上を維持向上し、最後まで頑張る生徒の希望進路決定率 70%以上</p> <p>(4)英検、漢検等の受験者資格取得者を倍増する</p>	<p>(1)春・夏休みに府立大生による受験指導を、各 5 日間行った。主に質問に答える形式であったが生徒の評判は上々であった。休暇中講習マイスタは、春季参加人数 22 人, 夏季 32 人と H25 に比べ増加し参加者 30 人を超えることができた (○)</p> <p>アートスタジアムは、4 年目に入り地元の梅文化会館で開催した。発表の完成度も高く来場者は昨年比 700 名に達した。(昨年は 2 日間で 577 名、目標比 233%) (◎)</p> <p>生徒の授業に関する自己診断の肯定率は「授業は分かりやすい」48.7% (14.2P↑)「授業は工夫されている」45.4% (14.2P↑)と前年比 14.2P 増加したが目標の 60%に届かなかった (△)</p> <p>進路は 16 人の未決定者がおり卒業生 302 人に対して 94.7%となり 95%には届かなかった (△)</p> <p>センター試験受験者が 8 人から 19 人に大幅に増加し一般入試も 32 人→44 人と増加し 41 名が合格した (実現率 93%)。漢検は例年並みであったが英検は例年一桁から 99 人と受験者が大幅に増加し、2 級 1 名、準 2 級の合格者が 11 名が合格した (○)</p>
<p>2 異校種連携の推進(地域と共に発展する西高ロコモユニティ)づくり</p>	<p>(1)部活動、学校行事の一層の活性化を図る。</p> <p>(2)地域貢献活動やボランティア活動の推進を図る。</p> <p>(3)地域連携を充実させる</p> <p>(4)異校種連携の一層の拡充と発展を図る</p> <p>(5)西高の取組みをさらに積極的に発信する</p>	<p>(1)卒業生、地域人材、大学生等の外部人材を積極的に発掘・活用する。また、中学生を招いた大会である「西高カップ」及び近隣小中学校や地域行事でのボランティア活動の拡充。</p> <p>(2)「西高はきれいで、挨拶ができて気持ちが良い」と地域住民や外来者から言ってもらえるよう、美化運動やあいさつ運動を展開する。</p> <p>(3)本高生はもとより、子供から高齢者まで地域の誰もが生涯学習のとして、様々なスポーツ・文化・学習活動に参加できる取組みをさらに進める。</p> <p>(4)小・中学校(桃山台小学校、福泉中央小学校、福泉南中学校)との連携した取組みの推進を図り、互いの学校の理解を深め、小・中・高が一体となって生徒の成長を見守る体制を構築する。</p> <p>(5)ア.広報媒体(パンフレット・ポスター・HP DVD)の内容を充実させ、学校説明会中学校訪問等を積極的に展開し西高の魅力を広く地域に訴える。</p>	<p>(1)ア.外部人材による講演、部活・学力指導回数 20 回以上 ※通常の部活指導を除く</p> <p>(2)生徒による校内外美化清掃活動回数：5 回以上実施</p> <p>(3)西高スクール参加者：100 名以上 (H25 は 70 名)</p> <p>(4)小中高の教員合同研修会を開催し出前授業 2 回以上実施 (水泳教室 AED 心肺蘇生講習含む)</p> <p>(5)学校案内パンフレット・ポスター、HP の刷新(学校説明会の参加者数+10%以上)</p>	<p>ラモス瑠偉の講演会をはじめ外部人材によるキャリア講演会、警察による交通安全講習など合計 21 回の外部人材による講演会を実施した (◎)</p> <p>年 2 回の校内美化週間をはじめ 8 回の校内清掃を実施した。外来者からも学校が綺麗ですねとのお褒めの言葉もいただいた。加えて生徒会で駅前清掃活動を実施した (○)</p> <p>西高スクールは地域の小学生を対象にしてスポーツキッズプログラム(スポーツ教室)とダンス部によるダンス教室を継続して行い延べ 551 名の参加があった (◎)</p> <p>ペルセウス座流星群の天体観察授業、夏休みの水泳教室および親子スポーツ教室、AED 講習を行い連携の授業・講習は 3 回実施できた (○)</p> <p>学校 HP を年度当初に、学校案内パンフレットも刷新し学校説明会に活用した。校内の学校説明会第 1 回～第 3 回累計 697 名の参加があった。昨年の 610 名から 87 名の増加 14.3%増加した (○)</p>
<p>3. 西高総がかりの元気で躍動的な運営組織の構築と積極的な人材育成</p>	<p>(1)めざす学校像実現のため、組織的に協力し取組む機動性・一体性に優れた組織構築をめざす(若手・ベテランの融合)</p> <p>(2)「フレッシュミーティング」をさらに充実する。</p> <p>(3)課題のある生徒や要配慮生徒を組織的に支援する体制を構築する。</p>	<p>(1)ア.トータルプラン委員会の提言を実現する(学力向上、キャリア教育、カリキュラム改革)</p> <p>イ.授業力に優れた先生による示範授業に若手教員を積極的に参加させ研究協議も含めて授業スキル・授業マインド双方の向上をめざす。</p> <p>ウ.新任教員と中堅・若手教員をペアリングした OJT 実施(スキルアップ、マインドの指導)。</p> <p>(2)ア.授業力を中心にコミュニケーション能力および社会人としての在り方を身につけ共有することで若手教員の能力向上を促進する。</p> <p>(3)ア.教育相談委員会をリニューアルし、前年度の教育相談・人推委・養護教諭の情報共有会議をさらに拡充し、課題のある生徒や要配慮生徒の支援態勢を充実する。</p> <p>イ.保健室、教育相談室を充実させ教室になじめない生徒の居場所づくりを行う。</p>	<p>(1)教員全員参加の研究授業を実施する。併せて若手・ベテラン融合の研究授業回数 3 回以上行う。</p> <p>(2)フレッシュミーティング OJT 研究討議発表会実施回数 3 回以上</p> <p>(3)教育相談委員会のさらなる活性化 (3 回以上の定例会開催)</p>	<p>授業公開週間を活用し教員同士の授業見学が活性化生かした。3 年目の若手教諭が小学校への出前授業や本校全教員が参加する研究授業で発表を行った。ベテラン教員の授業を DVD 化しスキルを共有した。(◎)</p> <p>フレッシュミーティングのメンバーで府教委の育成支援チームの助力を得て授業へのグループワークの導入と ICT 活用について 3 回の勉強会を開催した。(○)</p> <p>教育相談委員会を組織化し 7 回の会議と 1 回の研修会を開催した。教員間で課題のある生徒の情報共有をし適時適切な対応ができる体制が構築できた(○)</p>